



消防大学校だより

消防団長科第65期

消防大学校では、総合教育（幹部教育）学科において、消防団の幹部である団長及び副団長に対し、その職に必要な知識及び技術を総合的に修得させることを目的に「消防団長科」を設置しています。

本年度の消防団長科2期（第65期～第66期）のうち、第65期では、全国より消防大学校に集まった30名が8月25日から29日までの5日間にわたる全寮制の集合教育を終え、全員が無事卒業しました。これで消防団長科の卒業生は、前身の消防講習所を含め2,452名になりました。

教育訓練では、消防庁長官の講話及び消防団運営に関する講義ほか、消防団を取り巻く環境の変化に対応するため、消防団幹部のあり方、現場活動の安全管理、女性消防団活動等の講義を実施しました。

また、東日本大震災を含めた大規模災害活動事例を学ぶとともに、消防団本部と消防本部との災害発生時における連携及び情報連絡体制の確保をテーマとした学生参加型の指揮シミュレーション訓練を実施しました。

そのほか、課題研究として、「消防団員の確保」や「大規模災害時の消防団活動」などについて情報提供や意見交換を活発に行い、消防団が抱える諸問題に対する消防団幹部としての取組みの大切さについて認識を深めました。

今後は、消防大学校で修得した高度な知識・技術に加え、得られた全国の情報を活かし、地域の安全の確保・維持のために活躍することが期待されます。



入校式の様子



指揮シミュレーション訓練の様子



訓練礼式の様子



講義演習（1分間スピーチ）の様子

救急科第76期

消防大学校では、専科教育学科において、救急隊長等に対し、高度の知識及び能力を総合的に修得させ、救急業務の指導者としての資質を向上させること（指導救命士養成教育を含む。）を目的に、「救急科」を設置しています。

本年度の救急科第76期では、全国より集まった41名が9月9日から10月10日までの32日間にわたる教育訓練を終えて、全員が無事卒業しました。

現在、救急業務は、出場件数の増加、医療との連携による搬送体制の構築等、多くの課題を抱えており、学生は救急業務の指導者及び指導救命士として必要な知識、技術の習得に努めるとともに、その職責及び心構えについて認識を深めました。

教育訓練は、消防庁救急企画室長をはじめとする多彩な講師陣により、救急が抱える法律的な問題、その解決方法、最新の救急医療の動向、大規模災害時における医療との連携などの講義を実施しました。

また、表現能力の向上を図るためにパワーポイントを用いた資料の効果的な活用方法を学び、系統だった理論に基づいての部下指導及び研究発表などが実践できるよう、リーダーシップ論、教育技法、説得技法や接遇に関する講義や演習等も実施しました。

そのほか、課題研究として、学生が救急業務における様々な課題について自らテーマを設定し、現状の問題点、解決策等について検討を行い、研究成果として学生全員の前で発表しました。

さらに、訓練企画運営の授業では、高度なシミュレーションが可能な最新の訓練人形を用いて救急訓練を行うことにより、指導技術の向上に大いに役立つものとなりました。

教育を終えた学生からは、「指導救命士の養成のみならず、幹部教育として必要な講義も多く含まれており非常に有益な研修であった。」、「指導救命士として必要な知識・技術を習得することができた。」、「同じ志を持った者が集まり、情報交換を行うことによりモチベーションの向上が図れた。」などの意見がありました。

今後は、消防大学校で修得した高度な知識・技術に加え、得られた全国の情報を活かし、救急業務の指導者として、若手の育成、医療との連携、業務高度化への対応等、様々な場面での活躍が期待されます。



多数傷病者対応訓練の様子



最新の訓練人形を用いて救急訓練の様子

問い合わせ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712